

VOICE

IIZUKA NEWS vol.64

一般社団法人
飯塚青年会議所
VOICE 64

2019年度
理事長所信

2019年度
会員紹介

66th
anniversary

スポーツでもっと
飯塚を盛り上げよう！

2018年度 第65代理事長

玉置一貴

2019年度 第66代理事長

國武裕仁

2018年度 創立65周年記念事業及び活動報告
2019年度 理事長所信及び会員紹介



the 65th President

一般社団法人飯塚青年会議所
第65代理事長 玉置 一貴

理事長総括

本年は、私たち飯塚JCにとって創立65周年という節目の一年でした。その中で、新しい地域ブランドを創造するため、65周年特別室を中心に「スポーツのまち」を旗印に運動を展開してきました。この「スポーツのまち」というまちづくりは、飯塚JCの次年度にも引き継がれ、その発信力は、明るく豊かな未来を創っていくための運動として、行政や各種団体、住民の方々とも協働し、より強いものになると確信致します。また、本年この地域の未来へのまちづくりに対して一石を投じることができたのは、5年後、10年後に今現在を振り返ったときに、私たちがこの地域の未来を熱く想い、運動を展開してきた証として、また、この地域や飯塚JCのことを誇りに想えることに繋がったと考えます。

本年度は1室7委員会で様々な取組みを行ってきました。室・各委員会ともに、この地域や飯塚JCが抱える問題に真摯に向き合い、メンバーとも熱く議論を重ね、事業構築、開催をすることができました。その全てに共通していることは、「地域の人々との関わり」「飯塚JCメンバーとの関わり」であります。室長・各委員長の皆様は、全速力で一年を駆け抜けていく中で、時には立ち止まり、悩み苦しむこともあったと思います。しかし、本年掲げる「至誠」のスローガンのもと、多くの人々・メンバーと誠の心で関わり、ひたむきに泥臭くそのリーダーシップを発揮してくれました。その結果、事業に関しては私が思い描いた以上の成果をあげることができ、地域社会に対しても様々な気付きや提案を投げかけることができました。私たちが理想として掲げる「明るい豊かな社会」、それを実現していくためには、何より私たち自身が成長していく必要があります。事業を構築し開催する過程で、メンバーは多くの気付きを得る機会があり、自己の成長に繋がる一年になりました。

最後になりますが、創立65周年の節目の年、様々な出来事がありました。その一つ一つを地域の皆様のご協力と飯塚JCメンバーの支えのもと乗り越えていくことができました。飯塚JCが64年間脈々と紡いできた歴史に、65年目の新たな1ページを付け加え、66年目へのバトンを渡せることに心より感謝致します。次年度、飯塚JCが更なる飛躍を遂げ、この地域の未来が更に明るく豊かなものになることを祈念し、総括とさせて頂きます。一年間、有難うございました。

1年間の出来事



1月 新春祝賀会



1月 京都会議



2月 第二エリア合同例会



4月 野球部第二エリア大会優勝



4月 サッカー部九州大会優勝



5月 ASPAC 鹿児島大会



7月 市民祭 飯塚山笠



7月 西日本豪雨災害街頭募金活動



7月 創立65周年記念事業



7月 創立65周年記念式典



7月 台東国際青年商会来飯



10月 全国大会宮崎大会



12月 忘年会



2018年度 委員会活動報告

junior chamber international
iizuka 2018
committee activity



委員長
高田 博史

例会委員会

私たち例会委員会では人間力の溢れる魅力あるリーダーとしての成長を、一年間の担いとして11回の例会運営をおこなってまいりました。最初のころは議案の書き方、式典・アワーの進め方が分からずに四苦八苦しながら過ごしました。しかし、回を重ねるごとにメンバー一致団結し徐々に青年会議所としての例会運営を行うことが出来たと感じます。全ての例会において、例会委員会だけでなく他の委員会メンバーにも協力していただき1年間を終えることができました。例会というものは青年会議所活動において月に1度全メンバーが一同に会する大変貴重な時間となります。その貴重な時間を使う機会を与えていただいたことに感謝申し上げます。2019年度は本年お世話になった皆様に少しでも恩返しできるよう、また本年の経験を活かし様々な活動・運動へと繋げていきたいと考えます。ありがとうございました。

《1年間の活動》

- 1月 トモダチの和
- 2月 福岡ブロック協議会会長公式訪問
第2エリア合同例会
- 3月 大人運動会
- 4月 いただきます
- 5月 大人の簡単クッキング
- 6月 易於使用的中文課程 (イーユー・シーヨング・デ・チョンワン・クエチャ)
- 7月 飯塚式拡大方程式・創立65周年記念式典
- 8月 あすチャレ！アカデミー
- 9月 自社に取り入れる、How to 助成金
- 10月 マンダラートJCを考える
- 11月 ～家族の和～



1月例会トモダチの和



2月例会第二エリア合同例会



5月例会大人の簡単クッキング



11月家族例会 アイスパレスにて



委員長
財津 仁志

第二のふるさと創造委員会

私たち、第二のふるさと創造委員会は今年度、飯塚市にある3つの大学の大学生を対象に、私たちや地域の方々が真剣に学生たちと向き合い、学生たち目線でこの地域の魅力を考え、このまちの人たちとの関わりや、人情に触れる機会を作っていました。そして、地域と学生が一体となって、「この地域の魅力をより深く考え、発展させるために行動する」ことで、その時間や経験はかけがえない思い出と、生涯の繋がりを創ることとなり、学生たちの心に深く刻まれるのではと思い「Iizuka College Fes」をおこないました。その内容として、この地域の企業と大学生がタッグを組みこの事業に向け、商品開発をしていただき販売、展示を行う模擬店。また、大学生と地域の方々が一体になり盛り上がるステージイベント等をおこないました。事業終了後には今後も繋がりをもちたい等とありがたい声もいただき、関わってきた期間が実った瞬間でもありました。この大学生たちの想いがこのまちを第二のふるさとと認めて頂ける事と信じます。

《1年間の活動》

- 1月 事業形成
- 2月 3大学へ大学生の紹介依頼
- 3月 大学生とこの地域の魅力探し
- 4月 事業の構築
- 5月 事業の構築
- 6月 大学生と地域企業のマッチング
- 7月 創立65周年記念式典
- 8月 事業のオリジナル商品の開発
- 9月 事業準備
- 10月 「IizukaCollegeFes」事業の実施
- 11月 事業報告



学生達によるワークショップ



クイズで盛りあげました



司会を担当して下さったゴリけんさんと



事業終了後の大懇親会



委員長
古谷 和雄

魅力あるJAYCEE開発委員会

私たち魅力あるJAYCEE開発委員会は率先して青年会議所活動に参加できるメンバーを開発するため1年間活動してきました。メンバーが100名を超える中でまずはメンバー間の交流や研修をおし仲間との絆を深めるような事業を展開してきました。

事業を3回行わせていただき、1回目の事業では関わることの大切さを「至誠」を通じ学ぶため松陰神社の青田宮司をお呼びし講演いただきました。

2回目の事業では実際に関わり機会を掴むことの大切さを糸島の海の家で交流をメインとした事業をおこないました。3回目の事業では何事にも目標を持ってもらうことの大切さを事業をおし感じていただきました。この3回の事業をおし仲間との絆が生まれたと確信します。

1年間ご協力いただいたメンバーの皆様ありがとうございました。

《1年間の活動》

- 1月 新春祝賀会
- 2月 事業構築
- 3月 古谷村塾 ～姿勢を正し、至誠を学ぼう～
- 4月
- 5月 事業構築
- 8月
- 9月 古谷村塾 第二章 ～関わり合いともに歩む～
- 10月 事業構築
- 11月 古谷村塾 最終章 ～これからの歩み～



第1章 古谷村塾
～姿勢を正し姿勢を学ぼう～



第2章 糸島にて



第2章 古谷村塾-関わり合い共に歩む-



第3章 古谷村塾-これからの歩み-



委員長
宗 和彦

青少年育成委員会

当委員会では、インターネット環境の充実、スマートフォンの普及に伴い、人と人が直接的な関わりを持つことが減ったことにより、コミュニケーション能力の低下している事に着目し事業を展開致しました。事業構築の上では、子どもたちが如何に「楽しみながら学べるか」というところで考えて参りました。事業1日目では、学校内全体を使いチーム対抗の鬼ごっこをしました。互いに考え、協力し合うことで解決できる問題を出題し、仲間とのコミュニケーションの大切さを学び体感していただきました。2日目では、学校の課外授業の1日をいただき、ベンチ、ブランコ作りを通して、地域の大人と交流することで、普段交じり合うことないことのない大人の中でも、率先し動き、自身の意見を伝えることの大切さを学んでいただきました。製作したベンチ、ブランコは、別の機会に訪れた時に本事業を振り返られ、さらに地域の方々に利用して頂けるよう桂川町へ寄贈させていただきました。事業終了後、学校の先生方からは、なかなか自分から学校に出てこない生徒だった子が自発的に動いていた、はじめて会う大人とこんなに話が出来るとは思わなかったなどのお言葉をいただきました。本事業を経験した子どもたちが、将来、進学や社会へ出ることでおこる環境の変化に臆することなく、しっかりとコミュニケーションを取れる人財になっていただけたらと思います。桂川東小学校の先生方、桂川町井上一利町長をはじめとする桂川町役場の皆様、多大なるご協力いただきまして誠に有難うございました。

《1年間の活動》

- 1月 新春祝賀会
- 2月
- 3月 事業構築
- 7月
- 8月 夏休み大作戦！僕らがつくるこれからの絆！
- 1日目 『統率中～仲間と協力して
ミッションをクリアせよ！～』
- 2日目 『コミュニティキャンプ』ベンチ・ブランコの作成
- 9月 報告



ミッションクリアを目指し敵から逃げる！



初めて合う大人とのふれあい



ベンチ製作風景



完成後記念撮影



委員長
野見山 勉

会員拡大アカデミー委員会

私たち会員拡大アカデミーメンバーは、この地域の明るく楽しい未来の実現を目指す同志を拡大するための活動と、新入会員の育成という担いのもとスタートしました。2018年度は17名の熱き青年たちが飯塚青年会議所の新たな仲間となり1年間様々な活動や運動を行ってきました。10月に実施したアカデミー事業「～筑豊 嘉飯フェア～ in トリアス久山(物産展)」では、アカデミーメンバーが主体となり、32店舗の出店交渉から出店サポートや会場設営・運営を行いました。事業構築では、何度も困難な壁にぶつかり挫折しそうになりましたが、地域のため、仲間のため、そして関わる全ての人のため、強い信念と思いやりを持った行動力が困難な壁をも乗り越えていき、事業を成し遂げることができました。その結果、アカデミーメンバーたちはこの地域を担う人財となり、この地域からも必要とされる人財へと成長することができました。

《1年間の活動》

- 1月
- 2月
- 3月 会員拡大・アカデミーメンバー育成
- 5月
- 6月 7月例会アワーにて飯塚式拡大方程式の議案構築
- 7月 7月例会アワーにて飯塚式拡大方程式開催
- 8月・9月 会員拡大・アカデミーメンバー育成
アカデミー事業議案構築・準備
- 10月 **ATTRACTIVE TOWN CHIKUHO KAHAN
～筑豊 嘉飯フェア～ 開催**
トリアス久山での物産展(32店舗出店)
- 11月 忘年会懇親の部の議案構築・リハーサル
- 12月 忘年会懇親の部開催



たくさんのお客様で賑わいました。



アカデミーメンバー初めての事業！
頑張りました。



屋内ブースの様子



屋外ブースの様子



委員長
本河 実平

地域交流委員会

基本方針の中で、通過点でしかなかったこのまちを、ひとが集まるまちに変えていき、まちが活性していくこと信じ、関わる人々のまちづくりへの意識を高める事業を展開し1年間邁進していきます。という1文があります。今回の事業のアンケートの回答の中で「車で通りすぎることしか今までなかったので、歩くことでいろんなまちの歴史や特徴が知れてよかったです。」と書いた参加者がいました。1年間を通して考えた時に結果として伝えたい事、感じてもらいたいことが、少なからず理解してもらえたことが、委員長をしていて良かったと思えますし、報われた気がしました。

もちろん、私一人では到底できることではなく、副理事長が陰から表から支えていただき、地域交流委員会メンバーにも1年間不甲斐ない私についてきてくれたおかげで事業を行うことができましたし、1年間全うすることができました。本当にありがとうございました。

《1年間の活動》

- 1月 各種団体打ち合わせ
- 4月 方向修正
- 5月 事業構築
- 6月 事業構築
- 7月 広報開始
- 8月 事前準備
- 10月 飯たび探検スタンプラリー事業
- 11月 繋がるための報告会
- 12月 事業報告・忘年会



ポイントでクイズの答えを考える参加者



ほんまち商店街にも長い列ができました



ゴール地点にてお肉を待つ行列



事業後の交流会では近畿大学准教授にプレゼンを行っていただきました



委員長
大村 洋祐

総務広報渉外委員会

本年度の総務広報渉外委員会は、4回の総会運営をはじめ、飯塚JCのことをより多くの人へ発信し、運動の効果を高めるための広報を目指し1年間活動を展開して参りました。

広報活動としては、SNSによる情報発信、ウェブサイトのリニューアル等を行いました。また、飯塚JCとしては初の試みとなる新聞・テレビの記者の方々をお招きしての交流会を行い、各委員長の事業にかけ熱い想いをPRすることで、今年度の活動に興味関心を持っていただきました。

さらに、事業では、飯塚JCが約45年前に保存運動を行った「勝盛公園のSL」を活用し、私たちの運動は、地域の方々の意識を変える事業を行っていることを理解して頂く事業「シルミルサワル筑豊SLラボin勝盛」を開催いたしました。古くなったSLの再塗装、飯塚JCのことがわかるデジタル紙芝居を始め様々なブースや、SL設置の経緯を描いた巨大漫画の設置などを行い、多くの方々にご参加いただき飯塚JCのことを理解していただきました。

《1年間の活動》

- 1月 通常総会の運営・HPリニューアル
- 2月 広報基本ツールの見直し。飯塚JC公式ツイッター、インスタグラムの作成
- 3月 広報事業立案
- 6月 臨時総会の運営・メディアの方々との交流会の開催
- 7月 事業構築
- 8月 事業構築・8月臨時総会の運営
- 9月 広報事業・「シルミルサワル筑豊SLラボin勝盛」にて、SLの塗装はがし作業及び事業準備。
- 10月 広報事業・「シルミルサワル筑豊SLラボin勝盛」の開催
- 11月 通常総会開催
- 12月 VOICE作成



メディアの方々との交流会



広報事業 デジタル紙芝居風景



SL再塗装 参加者の方々との記念撮影



マンカSLが山をのぼった日 webにて公開中



特別室長
井上 敬介

65周年特別室

半月前に最後の事業を終え当時の忙殺の日々を少し懐かしく感じながら、報告議案の作成のため再びパソコンの前に座りキーボードを叩き始めると、カタカタという音が忙殺の日々の記憶をまた呼び起こしてくれます。2017年7月玉置理事長のご指名により65周年事業の室長を拝命し、長くも短かった1年数ヶ月、一瞬のように永遠に続くのかと思われた日々が昨日のこのように鮮明に一つ一つ思い返されます。

新しい地域ブランドを築き根付かせていくために、行政・地域住民・企業・大学・子ども、この地域に影響を与える全ての要素に訴え、本気で変えてやろうと心の底から想い「新しい地域ブランドの創造、スポーツのまち」そう唱え続け、信じ、駆け抜けた記録をここにいたします。

《1年間の活動》

- 1月 各種団体打ち合わせ
- 4月 車いすテニスアンケート
収集・各種団体打ち合わせ
- 6月 各種団体打ち合わせ
- 6月 プレスリリース
- 7月 台東青年商会来飯
あすチャレ！スクールin 伊岐須小学校
あすチャレ！スクールin 飯塚東小学校
各種団体打ち合わせ
- 8月 あすチャレ！
アカデミー・各種団体打ち合わせ
- 9月 車いすテニス体験会・飯塚コンファレンス2018
各種団体打ち合わせ
- 10月 事業報告会in 飯塚市役所・各種団体打ち合わせ
- 11月 あすチャレ！スクールin 鯉田小学校
各種団体打ち合わせ



このまちの未来を担う 子どもたちからの 地域ブランドの創造

このまちの未来を変えるには、子どもたちの教育は切り離すことができません。あすチャレ！スクールで車いすバスケットを体験した伊岐須、飯塚東、鯉田小学校の生徒の皆さんには、パラスポーツを身近に感じ、人間の持つ多様性を認め合い、理解を深めることができました。

市民意識を変えるにはまず自分たちの内面も変える必要があります。来たる2020年に向けて我々もパラキャンパ地受け入れ都市としての自覚を持ち行動していかなければなりません。日頃知ることのできない障がい者のリアルを学び、行動に移せるようになることで2020年のよき予行演習になりました。

意識改革による 受け入れ整備からの 地域ブランドの創造



この街の特色を活かした 地域ブランドの創造

私たちの住むこの地域には34年の歴史を持つ国際車いすテニス大会があります。本年度より天皇杯・皇后杯が下賜され、更なる地域活性の明るい話題となりました。もっと地域と車いすテニスの交流の機会を増やし、更にはこの地域で育った選手がこの地域の大会で活躍することを願い地域の障がい者、子どもたちを対象に車いすテニス体験会を行いました。



市民意識の変革からの 地域ブランドの創造

「する・見る・支える人」の交流というスポーツツーリズムの概念を地域の方々に知っていただくという市民コンファレンスを開催しました。行政の方々を中心に広くスポーツツーリズムを知っていただく講演会を3部開くとともに、スポーツによる発展の可能性を感じていただく体験会では延べ2400人もの地域住民の皆様に参加いただきました。地域のスポーツに対する機運が高まる機会になったのではないかと思います。



行政・住民・企業・大学も 参加する地域ブランドの創造

全体の事業の報告会を兼ねてスポーツツーリズムによる国や県が目指すべき方向性・具体的事例、研究論文の提出によるこの地域への具体的提案を行いました。行政や大学の方々を中心に90名近くのご参加をいただき、高まったスポーツの機運をこれから実行に移し、うねりを加速していただけることを十分に感じられる報告会となりました。



「至誠にして動かざる者は、未だ之れ有らざるなり」

1年間、至誠の旗印のもと、新しい地域ブランドとして「スポーツのまち」を推し進めてまいりました。これまでのすべての出会い経験に感謝するとともに、間違いなく飯塚青年会議所によるスポーツのうねりを地域に起こすことができた1年であったと確信いたします。

2018年度 新入会ヴォイス

2018年度は17名のメンバーが新しく加わりました。



三村 晋作 mimura shinsaku

私は、飯塚で生まれ、高校卒業まで飯塚に住んでいましたが、大学・サラリーマン時代と飯塚から離れて生活していました。昨年、地元に戻ってきて、しばらく後、諸先輩方の勧めもあり、飯塚JCに入会しました。飯塚JCでは尊敬できる先輩がきっと見つかると思います。その先輩方からバトンを引き継ぎ、それを次代へとつないでいくことが私の責務であると考えています。地域社会の発展のため、微力ながら尽力していきたいと思っています。



鶴原 賢 tsuruhara ken

飯塚青年会議所に入会させていただいてから他業種の方と接する機会が増え、その中で人とひとが関わることの大切さを学ばせていただきました。

担当する事業では地域のことをより知ることができ、地域の方とも飯塚青年会議所でしか体験できないような違った角度からの関わりかたも学べ、大変貴重な体験をさせていただきました。今後も飯塚青年会議所での活動を通して自己成長に繋げていきたいと思っています。



久保 勝志 kubo katsushi

私はサラリーマンという立場で、平日仕事終わりや休日に参加できる時に参加しています。メンバーの方は多業種で仕事上の幅も広がり、積極性・自主性のある方が多く刺激を受けています。特に事業に関する準備や会議等を通して、事業を、人を、地域を、より良くしていこうと意見が飛び交う場面も、様々な考え方や意見が勉強になります。積極性・自主性・責任感・思考力・表現力を身に付け自分の糧に、成長に、繋がっていると確信しています。



國本 洋規 圭 kunimoto hiromizu

「JCってどんなところ？」私も入会する時に抱いた、率直な疑問です。

そして1年経った今でも、JCの全てを把握しきれしていません。それほど奥が深いところです。

①仕事でもプライベートでも付き合える友達に会える

②地元で自分の歴史が残せる

③「世の中、本当に色んな人がいるよね」と実感できる

少しでも気になった方、一度お試しで入会してみませんか？飲み会がダメな人から武闘派まで、100種類のタイプがお待ちしております。

2018年度 部活動報告



野球部

2018年度飯塚JC野球部は新入部員も多く、ブロック大会では接戦にて敗戦することとなりましたが、練習回数も少ないなかエリア大会で優勝することができました。この結果は、野球部が一番大切にしている「チームワーク」が本領発揮したからだと思っています。2019年度は、部員各々がさらに交流を深めることでチームワークを高めていきます！そして、全国大会出場をめざしチーム一丸となって頑張ります！



サッカー部

2018年度サッカー部キャプテンの齋藤です。昨年の春、創部以来、初の九州大会制覇を成し遂げ、さらに今年は、連覇を達成いたしました！！実は、飯塚JCは、サッカーもすごいです！！現在、現役メンバー32名・シニアメンバー16名 総勢48名で活動しており、普段のJC活動以外でも、多くの交流を図れる場になっています。また、スポーツを通して熱き思いを持ったメンバーばかりで、会議所でも理事として頑張っているメンバーが多くいます。是非、興味がある方は、素人でも飲み仲間でも構いません、一緒に三連覇目指して頑張りましょう。



じゃがいも会(ゴルフ)

じゃがいも会という名前の由来はゴルフが下手で皆が過ぎ去った後にコースがじゃがいもを掘った後みたいになる事からつけられたという説が有名です。その名の通り上手ではない人も気軽に参加できる会ですし上手な人は公式の全国大会があるとても幅広く懐の深い会です。ゴルフを通じて1日を共に遊びつくすことで普段の数倍のスピードで先輩や仲間との仲を深められるとってもコスバの良いクラブ活動になってます。入会後は初めてでも初心者でも是非じゃがいも会に入会し、ゴルフを通じて仲を深めましょう。



青松会(茶道)

H28年11月に発会し、今年で3年目を迎えます。飯塚青松会(いづかせいしょうかい)は、茶道の心得を示す「和敬静寂」の精神を会得するために、茶道やそれに関係した活動を行っています。本年度は、当会の会議をはじめ、活動報告会や、他JCの茶道同好会の発会式への参加、各種大会でのお茶席のお手伝いなどを行いました。



勇往邁進

GOING FULL SPEED AHEAD

～確固たる信念を胸に進もう～

一般社団法人飯塚青年会議所
第66代理事長

國武 裕 仁

はじめに

子どもの頃、どこからともなく、青年会議所という言葉を目にしていました。何の団体かも、何をやっているのかもよく知りませんでしたが、子どもの頃想い描いていた、青年の姿であったと今ではそう思っています。そして、気がつけば22歳の時、自らその門を叩き青年会議所という道歩み始めました。右も左もわからない私を多くの先輩たちに指導していただき、人生の半分をこの青年会議所に育てられたといっても過言ではありません。そんな先輩たちが、飯塚青年会議所を卒業して、それぞれの立場で、それぞれの場所地域でリーダーとして、社会のリーダーとして活躍している姿をみることができるのは、飯塚青年会議所の誇りであり「明るい豊かな社会の実現」に向かって歩み続けていることを実感できる瞬間でもあると私は感じています。

私たちは、JAYCEEとして、この飯塚青年会議所で培った経験とノウハウを活かし卒業しても、この地域の発展のために先頭に立ちリーダーとなって運動を推し進めていかなければならないと思っています。

だからこそ、今、この飯塚青年会議所で、ひとつりやまひとつりを通じて、かけがえのない仲間たちと共に、このまちの未来、夢や浪漫を語らい、「明るい豊かな社会の実現」に向かって志を立て、どんな苦難にぶつかっても、ぶれずに正面から正々堂々と挑んでいきたいと考えています。そして、私自身がその先頭に立って行動を起こし、この地域の未来をより良いものにするため、歩みを進めてまいります。

地域環境を活かしたまちづくり

まちの交通インフラは飛躍的に向上し、さらに推し進められて行こうとしています。さらにスポーツ施設の充実などは整いつつも、それをもっと活用していく部分では出遅れているのではないかと危惧しています。また、スポーツ施設にばかり目がいきがちで、その場所を使用することに力を置きすぎているように感じます。このまちには、施設以外にもスポーツを行える環境があります。さらに誇れる食や人の温かさ、見渡せば山や川などの自然に恵まれています。このような環境をつかい、「スポーツのまち」をさらに推し進めたいと考えています。嘉飯桂はもとよりJICのネットワークを活用しこのまちのスポーツツーリズムを加速させていきたいと考えています。山を越え景色を楽しみ、食に触れ元気になり、人の温かさに触れ活力となるような広域かつ大規模なスポーツイベントを行うことで、間接的な効果が得られやすいように工夫した事業を展開し地域の方々が目に見える効果を感じることで、将来、様々なスポーツイベントの開催の促進に繋がっていくと確信しています。そして、創立65周年で掲げられた、このまちの新たなブランド「スポーツのまち」をより明確なものにし、地域内外から行ってみたい、いつか住んでみたいと思わせる、明るく楽しい地域につながるのです。

変化に柔軟に対応できる人材

この国のグローバル化や情報化はとどまることを知らず、変化に柔軟に対応できる人材が求められる時代となりつつあります。AIの発展やビッグデータの活用によって10年後の未来には、無くなる職業が激増し、ライフスタイルさえも激変すると言われていて予測できない未来に子どもたちはどう過ごしていくのでしょうか。大人たちは何を教えればよいのでしょうか。そんな時代だからこそ、自ら未来を切り開き、変化に柔軟に対応できる人材になることが、必要不可欠であると考えます。多くの人と関わり、多種多様な考え方に触れ、広い視野で世の中の動きを俯瞰し、その変化を的確にとらえ、いつもより一歩先を見て、考え行動することは、未来を切り開く力を育てます。自分の未来へのペクトルをどこに向けるか、未来をいち早く見定め行動を起こせるものこそ、自分の未来を切り開いていけるのです。

このまちに育てられ、故郷の愛情に触れて育った子ども達は、必ずこの地域の為に行動を起こしてくれます。そして、変化に柔軟に対応できる人材こそ、地域の未来を育み、希望に満ち溢れる笑顔を保つように広げ、次代をより明るい地域へと発展させてくれると確信し、子ども達の育成を行ってまいります。

このまちに育てられ、故郷の愛情に触れて育った子ども達は、必ずこの地域の為に行動を起こしてくれます。そして、変化に柔軟に対応できる人材こそ、地域の未来を育み、希望に満ち溢れる笑顔を保つように広げ、次代をより明るい地域へと発展させてくれると確信し、子ども達の育成を行ってまいります。

世界から選ばれるまちを目指して

九州の訪日外国人の数は、2000万人を超える勢いで増え、福岡県ではその訪問数やインバウンド需要で全国上位を示す統計が記されています。このようなインバウンド需要や世界的な日本食ブームなど、いま日本は世界から注目されています。しかし、それは一部の文化遺産や有名観光地、大都市圏といった部分だけに効果があり、地方にはあまり影響を及ぼしていないように感じます。福岡都市圏から、車で一時間足らずで来ることができるこの地域の魅力を活かし、世界にこのまちの魅力を伝え、多くの外国人が訪れ交流する機会が増えるようになれば、世界を視野においたビジネスや地域の活性に取り組もうという意識が高まります。

そうすることで、世界中の人たちとの交流を盛んにし、多彩な知識や文化を取り入れやすくなり、このまちは新たな発見をする機会を得ることができます。そして、このまちの新しい魅力を生み出そうとする意識が多くの人に広がり、魅力あふれるまちへとつながります。

私たちは、外国人の目線で見えたこのまちの魅力を改めて考え、新しい発想でこのまちの特色を活かした、世界から選ばれるまちの創造を推し進めてまいります。

憧れの青年でありたい

私たち青年は、次代の担い手として、日々を精一杯過ごしていますが、子どもの頃に想い描いた青年と比較してどうでしょうか。社会に責任を持ち、人から頼りにされ、若者から憧れを抱かれる、そんな存在になっているのでしょうか。

私の考える憧れの青年とは、信念と自信をもち、その背中を堂々と見せることができ、次の世代へと繋げていける青年であると考えます。そのためには、多くの知識と経験を蓄え、信念を貫き通せるだけの自信を持つことが必要であると考えます。青年会議所という組織の中で、まちづくりやひとつりを通じて、意見をぶつけ合うこと、様々な考え方に触れ、青年会議所ならではのスケールで行われる経験や、多種多様な人からもたらされる知識は、いつまでも自身の宝となり、地域社会や会社に貢献できる材料となります。リーダーシップを取り、お互いに切磋琢磨することは、自己成長を促し、これまでの考え方を変えてくれます。さらに、そんな自分の姿を多くの人が見ることで、確実に次の世代が育っていきます。青年会議所の運動や活動の中には、仲間と関わりあう時間やそこで生まれる絆とおして、気づきを得ることができる機会がたくさんあります。そのような機会に積極的に向き合い、自己成長を積み重ねることで強い信念を貫き通すことのできるリーダーへと成長していき地域社会へと貢献できる人材を多く輩出することが青年会議所の使命だと考えます。

このまちの未来を考える青年を増やすために(会員拡大について)

「JIC」という言葉や「青年会議所」という組織がこの地域の人達のように伝わっているのでしょうか。65年という長い歴史の中で私たちの想いはどの程度、この地域に浸透しているのでしょうか。飯塚青年会議所の価値や存在意義が今よりさらに認められていれば、新たな会員の獲得に苦労する必要はないです。拡大するための行動を起こさなければ会員の増加がみられず、ブランディングを考えなければ飯塚青年会議所の価値に気付いてもらえないというのが現状です。しかし、私たちは「明るい豊かな社会の実現」に向かって運動や活動を展開しさらに、その渦をもっと大きくして、この地域の未来をより良いものにしていかなければならないと考えています。だからこそ会員拡大を積極的に行い、このまちの未来を本気で考えることができる、青年を増やす必要があるのです。

まずは、飯塚青年会議所の存在をもっと多くの人たちに知っていただき、活動内容を理解していただく必要があります。そして、私達は自分の意思で入会し、自分の時間とお金を使い活動している団体です。それぞれが愛するこのまちの為に65年もの間、尽力しているこの飯塚青年会議所を周りにいる友人や知人に勧められないはずがありません。全員が自信を持ってこの価値ある団体を広く発信していかなければいけません。

「明るい豊かな社会の実現」という理念を遂行する為には、地域に認められ、求められる存在となり、そのことが新たな会員の獲得にも繋がっていくと確信し会員拡大に取り組んでいきます。

地域を発信していくものとして

情報技術を取り巻く世界は、日々進化を遂げています。私たちはこのような情報技術をいかにうまく使い、この地域の情報はもとより、私たち自身の活動や運動を地域に発信していくためにも、活用する術を身につけなければならないと考えています。また、世の中にある数えきれない情報の中には多くのフェイクニュースや虚偽の報道なども存在しています。そういった情報も含めて評価、識別し、情報を主体的に読み解き、必要かつその真意を見抜き活用する能力、メディアリテラシーを身につけることも、情報を発信する側においては重要なことだと考えています。

私たちは、地域を発信していくものとして、可能な限りあらゆる技術を習得し、正確かつターゲットに応じた情報発信を行うことが必要です。また、私達の今まで培われてきたネットワークを活かし、地域に先駆けて、各種団体のイベント情報を一本化するシステムを確立することで、それぞれの団体がイベントスケジュールの立案やノウハウを共有するきっかけにもつながり、まちづくりの効果や地域を発信することにおいて相乗効果をもたらすことが可能となり地域全体で行うまちづくりへと繋がると確信します。

おわりに

ある日、このまちがスポーツ一色にそまり、昼夜を問わずスポーツに明け暮れる人々の笑顔にあふれ、それを支えあうことで地域が活気づいている。子どもたちは、自身で見定めた輝く未来に向かって大きく羽ばたこうと、夢を笑しげに語っている。世界中の人達が毎日のように訪れ、このまちの魅力に触れている。若者は青年会議所の姿に憧れ抱き「明るい豊かな社会の実現」という志を持つようとしている。

平坦な道のりではないけれど、かけがえのない仲間たちと積み重ねてきた飯塚青年会議所のたゆまない努力を無駄にしないため、これまで支えていただいた先輩方や地域の方々への期待を裏切らないため、そして次代を担う子どもたちの未来のために、これから先訪れる10年先、20年先の未来に「明るい豊かな社会を」想い描きながら、家族を愛し、地域のことを想い、仲間と考え抜き、満を持して選んだその道に、恐れることなく勇ましく進んでいくこと、この確固たる信念を胸に一年間勇往邁進してまいります。

事業計画

地域環境を活かしたスポーツ事業
変化に柔軟に対応できる人材を育むひとつり事業・世界から選ばれるまちを創造する事業
地域へ貢献できる人材を育むJAYCEE開発事業・知識や経験が得られる例会運営
メンバー全員で取り組む会員拡大
相乗効果をもたらすことができる情報発信・飯塚JIC全体で取り組む山笠運営
台東国際青年商会との国際交流
新春祝賀会、創立記念、忘年会の運営

2019年度 特別室・委員会紹介

special room & committee

スポーツツーリズム特別室

私たちが貫く信念、それは一般社団法人 飯塚青年会議所（以下、飯塚JC）で活動する全メンバーが、この地域のよりよい未来を望み、「スポーツのまち」という新たな地域ブランドの推進に向け、飯塚JC全体を巻き込み高い志と熱い情熱をもって活動に移すことである。

昨年、創立65周年という節目の年に掲げられた「スポーツのまち」この事業構想はスポーツツーリズムの観点から地域の活力に一躍の兆しをみせつつ、今後のよりよいまちづくりに対して大きな可能性を秘めています。昨年から本年とそのチャンスを十分に活かしていくためにも、まず事業構築を行ううえで既存の施設を利用することだけに捉われず、柔軟な発想を基に、この地域ならではの自然環境を活用し、スポーツ大会の誘致やスポーツイベントの開催をさらに盛り上げていきます。さらに、地域活性のために取り組む行政や各種団体を巻き込み、選手や関係者が生み出す経済的
直接効果や、そこで生活を営む企業や個人の方が参画することによって期待される、受け入れ整備や観客が生み出す、間接的効果を感じていただけるよう取り組んでまいります。

また、スポーツを通じて人とひとの交流や、その交流から波及していくまちづくりの在り方は、スポーツによるまち興しがひとつの風物詩として広がっていくことで地域の方々に新たな可能性を感じていただくと確信致します。

本年、入会されるアカデミーメンバーの人財育成は、今後の飯塚JCが存続していくうえで重要な役割であり、JAYCEEとして、まちのため、ひとのために行動できる人財となるよう、活動や運動を通じて自分自身が活躍できるポジションをみつけていただくことで、責任感が育まれ、互いが互いのために行動する相互扶助の精神に繋げていきます。最後に、一年といったかぎられた時間のなかで、スポーツツーリズムを通じて、まち全体の持続可能な発展のために勇往邁進していく所存です。



室長

穂坂 貴彦

hosaka takahiko

会員拡大ブランディング委員会

一般社団法人 飯塚青年会議所（以下、飯塚JC）は、諸先輩方の様々な会員拡大の努力により、100人を超える志を同じくする仲間と運動を行ってまいりました。これまで飯塚JCは65年もの長い歴史の中、40歳で卒業という新陳代謝を繰り返し、様々な運動を推し進めてきましたが、私たちは飯塚JCの価値をこの地域の人たちに正しく伝えてこれたのでしょうか。価値を正しく伝えてこれたなら、我々の運動に対してもっと多くの参画者や参加者が集ってくれたと感じます。また、この地域の未来を本気で考えてきた団体だからこそ、この地域の人たちにとって唯一無二の存在であり、その存在意義を発信していかなければならないと考えます。

それにはまず、これまで65年間もの長い歴史の中行って来た運動や我々メンバー自身が飯塚JCの価値であり、キーパーソンであることを私たちが認識する必要があります。そして、組織の理念に基づく行動と日常の行動を、改めて自覚することがこの飯塚JCの価値を高め、これまで以上に誇りに思えるような組織に変わっていくと考えます。また飯塚JCの価値をこの地域の人たちに正しく伝え、こんな青年がいるのだからこの地域の未来は大丈夫だと思っていたことこそがブランディングなのです。だからこそ、飯塚JCの価値を正しく多くの人たちに伝えることが、志を同じくする仲間を増やす効果的な会員拡大に繋がります。この地域の燃え上がるような青年を創る火種となることを信じ、勇往邁進の精神でこの一年間突き進んでいきたいと思います。



委員長

原中 茂雄

haranaka shigeo

総務エリアマーケティング委員会

私たちが生きる社会は、ITの普及により、インターネットを介して、どこにいても、すぐに多くの情報にアクセスできる時代になりました。多数の情報を瞬時に取得できることは、一見、とても利便性が高いように思えます。しかし、私たちが手にする情報のすべてが正しいわけではありません。誤った情報を手にし、それを発信してしまうリスクもあります。それゆえ、今の時代は、情報の正誤を判断し、情報を適切に活用するスキルを身に付けるべき時代であるともいえます。特に、私たち、一般社団法人 飯塚青年会議所（以下、飯塚JC）は、地域の内外から多くの情報を取得し、その情報をもとに事業を計画し、外部に事業を発信していく、情報の受発信の双方の責任を担う立場にあります。そのため、私たち、飯塚JCが計画する事業の目的を正確に外部に伝えるためにも、情報を正しく的確に捉えると共に、正確にターゲットを見定めて情報を発信するスキルを高める必要があると考えます。

また、飯塚JCでは、これまでの長い歴史の中から、先輩方が築き上げてこられた、行政、企業、団体など、各種団体とのネットワークがあります。現在、各種団体のイベントや活動の情報発信は、飯塚JCも含め、各々が蓄積した独自のノウハウによってなされています。しかしながら、各種団体が類似のイベントを同時期に開催しているにも関わらず、イベント同士の繋がりがなく、ネットワークの資源を有効活用できていないケースが見受けられます。もしも、特定の場で、各種団体がイベントの情報を発信できる仕組みがあれば、事前に他団体のイベント情報を把握できるため、類似のイベントを企画する団体同士が連携し、イベントの人員、資金、知識、集客など様々な面で協力がなされ、ネットワークの資源を有効活用できると考えます。さらに、他団体の情報発信のノウハウを共有できる機会を得られるため、ネットワーク全体で情報発信のスキルの底上げが期待できます。すなわち、情報発信の特定の場が存在することは、各種団体のイベントの立案や情報発信において相乗効果を生み出し、このことが地域の活性化に繋がると考えます。

そこで、当委員会では、まず、対内向けに、情報の受発信に対するスキルの向上を図る取り組みを行います。次に、地域の各種団体が情報を発信する場の一本化、および、情報発信のノウハウを共有する仕組み作りを行います。そして、この一連の取組みが地域の活性化に繋がるように努めてまいります。



委員長

長谷川 伸一

hasegawa shinichi

例会委員会

私たち一般社団法人 飯塚青年会議所(以下、飯塚JIC)が、この地域を「明るい豊かな社会」へ実現するために私たちが一人で行う活動には限界があります。そのため一人でも多くの同じ志を持った仲間たちと成長し運動を行っていくことが必要です。仲間たちと議論することでお互いの心が通じ合い、より強い結束力が生まれ一致団結し活発に運動を行うことができるようになりますと考えます。

そこで、例会委員会では、式典においては事前準備を入念に行い厳粛で滞りのない運営を行います。アワーにおいては、メンバー同士が議論し会社やJIC活動などで役立つ知識や経験を得ることで個人の成長へ繋がるよう企画します。そうすることで、より強い結束力が生まれ飯塚JICの行う様々な活動や運動がさらに活発になりこの地域の「明るい豊かな社会」の実現へ繋がっていくと確信します。個々が成長でき、お互いを思いやることで飯塚JIC全体に強い結束力が生まれる例会となるよう例会委員会メンバーが一丸となり一年間邁進してまいります。



委員長

藤 春 太 輔

fujiharu taisuke

国際交流まちづくり委員会

我々、一般社団法人 飯塚青年会議所(以下、飯塚JIC)は地元に着目したまちづくり事業をこれまで行ってまいりましたが、近年日本に関心を持ち、訪れる外国の方が増えている現状があります。その訪れている方は日本の観光地や文化遺産を訪れ、日本文化やその土地の魅力に触れることにより、地域の方々と様々な交流を持つこととなります。また地域の方々と外国の方々と交流することにより、日本にはない習慣、知識、文化に触れ刺激を受けることで世界に向けて視野が広がります。刺激を受けることで地域の活性に取り組もうという意識の変革がおこり多くの方がまちに関わるようになります。私たちの住む地域の近隣にも福岡市や太宰府市といった魅力あるまちが多くあり、そこでは多数の外国の方が訪れ、それぞれの地域で交流しております。しかし、都市圏から離れた私たちの地域は魅力を伝え交流することができておらず、取り組む意識が薄いのではないのでしょうか。

そこで当委員会では、委員会メンバー、地域の方々、外国の方々がお互いの習慣、知識、文化に触れる機会を作り、国際交流に取り組む意識を高め、外国の方々の目線で彼らの求めるものを捉え、地域の魅力を再考し、それらを発信、交流する機会を創出します。そうすることで外国の方々が私たちの地域に訪れていただける機会が増加すると共に、まちを活性化させ、世界から選ばれるまちへと繋げてまいります。そのためにも委員会メンバー一丸となり一年間勇往邁進してまいります。

また、台東国際青年商會訪問はこれまでの諸先輩の方々が培ってまいりました友好関係を継続し、相互の友好関係がより一層発展するよういたします。



委員長

村 山 一 成

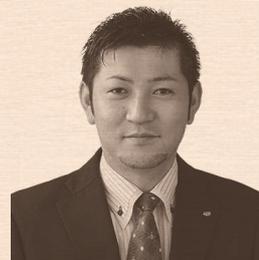
murayama kazunari

未来創造委員会

現在私たちを取り巻く環境は、人工知能やロボット技術の発達により、急激に変化しています。大人たちでさえついて行くのが困難な社会になりつつ、さらに遠くない未来にはなくなる職業もあるといわれ、新たな職業も出てくるといわれています。このような時代だからこそ、子どもたちは自ら未来を切り開き、変化に柔軟に対応できる人材になることが必要だと考えます。

自ら未来を切り開き、変化に柔軟に対応できる人材になるためには、まず、多くの人とふれあい、いろいろな情報を吸収し、自分の中の選択肢をふやし視野を広げることが重要です。また、選択肢をふやし視野を広げることでいろいろな問題に対応しやすくなり、子どもたちに変化に対応できる柔軟性を与えられると考えます。次にその柔軟性をもとに、夢や目標を明確に設定し、それに向け挑戦する過程で「チャレンジ精神」を身に付けることができます。その経験を繰り返していくことで、どんな壁にぶつかっても怯まず挑戦し、自ら未来を切り開き、変化に柔軟に対応できる子どもたちの育成につながると考えます。

そこで当委員会は、多くの人とふれあい目標をたて、色々な問題に挑戦していくことの大切さを知っていただき、子どもたちが、明るい未来を創造することのできる人材になるきっかけを与えられる事業を構築してまいります。また、私たちが愛情を持ってふれあうことで、地域の愛情を感じ、成長した子どもたちがここで得た気づきを、次世代の子どもたちのために伝える姿を理想とし、その姿が、この地域の「明るい豊かな社会の実現」に繋がっていくことを確信し、一年間邁進してまいります。



委員長

三 船 仁 史

mifune hitoshi

リーダー育成委員会

私たち一般社団法人 飯塚青年会議所(以下、飯塚JIC)では、自己成長できるような様々な企画を行い知識や経験を積むことができますが、その経験を活かして地域社会において子どもたちが憧れを抱くような青年として活躍されている方はどれくらいいるのでしょうか。私自身が子どもの頃におもい描いた憧れの青年とは、使命感があり自信に満ちた青年だったとおもいます。しかし、飯塚JICに入会しているものの積極的に活動に参加しなければ憧れの青年になれる気づきや経験は得られません。

私たちが子どもの頃におもい描いた憧れの青年の背中を次世代へつなげて行くためには、自分自身が憧れを抱かれる青年でなくてはなりません。そのためには、知識や友情を深め様々な経験を積むことが第一歩だと考えます。経験に勝るものはないといいますが、青年会議所で培った経験を積み重ねることで信念を貫きとおす自信が身に付くと確信します。憧れを抱いてもらえる青年をめざすことで、あらゆる活動に積極的に参加し、経験を積み堂々とその背中をみせる魅力あるリーダーが多く輩出されれば、必然とその姿をみて育つ子どもたちも増え、飯塚JICの存在意義も確固たるものとなります。

本年度、リーダー育成委員会では、青年会議所で得た経験を活かしてリーダーとして自信をもって先頭に立ち、みんなを引っ張っていきける人材を育成します。そのために、魅力あるリーダーとはどのような人物なのかを知っていただき、さらに、私たち自身が憧れを抱かれるリーダーに成長できる気づきを与える事業を構築いたします。この事業をとおしてこの地域の未来がよりよいものになると信じ勇往邁進してまいります。



委員長

中 村 和 也

nakamura kazuya

執行部

board member

 理事長 國武 裕仁 (有)システム ハウジングタイセイ	 直前理事長 玉置 一貴 (株)玉置	 副理事長 樺島玄陽 龍王ガス(株)	 副理事長 外山 武志 (株)KMG
 専務理事 麻生 将豊 麻生商事(株)	 事務局長 中川 裕貴 ナカガフ証券 アドバイザー(株)	 事務局次長 鈴木 健午 (株)東和コーポ レーション	 常任理事 坂口 天志 (株)東塚電設
 監事 白附 圭太 (株)ケイタース	 監事 深田 陵市 (有)南屋観光	 室長 深田 良介 (株)深田環境開発工業	 室長 高田 博史 (有)高田工業所
 常任補佐 元野木 正比古 (株)元野木書店	 室長 浅田 智之 ダイワ印刷(株)		

特別室・委員会メンバー

special room & committee member

 スポーツ ツーリズム 特別室 室長 穂坂 貴彦 農事組合法人 穂坂牧場	 スポーツ ツーリズム 特別室 副室長 新栞 健一 メットライフアリコ 生命保険(株)	 スポーツ ツーリズム 特別室 副室長 鶴原 賢 鶴原液化ガス(株)		
 スポーツ ツーリズム 特別室 伊藤 哲 WORKERS CARE	 スポーツ ツーリズム 特別室 大庭 みほ子 (株)コスモスハウス aruk-ある暮らし-	 スポーツ ツーリズム 特別室 小松 佳弘 (株)パーソナル・グラス アイックス	 スポーツ ツーリズム 特別室 佐野 敏幸 (株)佐野組職工所	 スポーツ ツーリズム 特別室 渋谷 徹 ピース運転代行
 スポーツ ツーリズム 特別室 宗 和彦 やしま整骨院	 スポーツ ツーリズム 特別室 前田 美紀 (株)ニッツー	 スポーツ ツーリズム 特別室 室井 隆太 ミンクプロダクツ(株)	 会員拡大 ブランディング 委員会 委員長 原中 茂雄 (株)KRC	 会員拡大 ブランディング 委員会 副委員長 小山内 弘治 小山内工業
 会員拡大 ブランディング 委員会 小田 裕亮 (有)明豊舗道	 会員拡大 ブランディング 委員会 國本 洋規垂 マルマツ産業(株)	 会員拡大 ブランディング 委員会 財津 仁志 (資)内桶商店 山田農園本舗	 会員拡大 ブランディング 委員会 谷延 甲太 居酒屋 すけはち	 会員拡大 ブランディング 委員会 野見山 勉 (株)グリュックス
 会員拡大 ブランディング 委員会 前山 剛哉 前山産業	 会員拡大 ブランディング 委員会 丸嶋 久典 (株)親和園	 会員拡大 ブランディング 委員会 福澤 裕史 Rudies Cafe Rico Grill	 会員拡大 ブランディング 委員会 堀江 勇輔 (株)福岡中央銀行	 会員拡大 ブランディング 委員会 本河 実平 (株)本河住建
 総務エリア マーケティング 委員会 委員長 長谷川 伸一 (株)ワーキング ハセガワ	 総務エリア マーケティング 委員会 副委員長 鮫島 清 あかね合同土地家屋 調査士事務所	 総務エリア マーケティング 委員会 有吉 健太郎 (株)筑豊調味	 総務エリア マーケティング 委員会 稲岡 良平 福岡県平税理士 事務所	 総務エリア マーケティング 委員会 大谷 悟史 大谷組
 総務エリア マーケティング 委員会 越智 信次 (株)サンヨー建材工業	 総務エリア マーケティング 委員会 加藤 謙太郎 ロケット石炭(株)	 総務エリア マーケティング 委員会 古賀 浩一 (有)セントコーポ レーション	 総務エリア マーケティング 委員会 庄野 愛智 (株)一輝・(株)白鳳会	 総務エリア マーケティング 委員会 田中 智章 ダイニングパダブル

 総務エリア マーケティング 委員会 徳久 憲一 (株)福岡銀行	 総務エリア マーケティング 委員会 吉田 学 (株)大地	 例会委員会 委員長 藤春 太輔 光和建设(株)	 例会委員会 副委員長 三村 晋作 筑豊通運(株)	 例会委員会 安中 祐二 (株)アイビメディアカル
 例会委員会 井上 新 ドライアイズ筑豊(有)	 例会委員会 宇都宮 直崇 農相八幡宮	 例会委員会 加藤 陽子 (株)福岡カホ スイミングスクール	 例会委員会 小林 奈々 ビップエコー飯塚店	 例会委員会 高橋 義彦 (学)崎田学園 飯塚高等学校
 例会委員会 多賀谷 勇気 (株)多賀谷建設	 例会委員会 藤川 聡 藤川自動車(株)	 例会委員会 松本 篤 松本電気管理事務所	 例会委員会 吉原 正和 (株)愛和不動産	 国際交流 まちづくり 委員会 委員長 村山 一成 (株)幸信
 国際交流 まちづくり 委員会 副委員長 能登 洋晃 (有)かいた環境 開発工業	 国際交流 まちづくり 委員会 岩本 真司 (有)サキオ	 国際交流 まちづくり 委員会 大内田 洋 (株)ライムワークス	 国際交流 まちづくり 委員会 川原 佳二 富寿司	 国際交流 まちづくり 委員会 崎村 豊 崎村組
 国際交流 まちづくり 委員会 下田 聡 西日本シティ銀行 飯塚支店	 国際交流 まちづくり 委員会 高野 敬 きぬや呉服店	 国際交流 まちづくり 委員会 野上 智司 (株)のがみ組	 国際交流 まちづくり 委員会 福澤 慶之 上置務貨物自動車 運送(株)	 国際交流 まちづくり 委員会 吉浦 俊次 (株)ヨシクラ
 国際交流 まちづくり 委員会 吉田 敏浩 筑豊印刷(株)	 未来創造 委員会 委員長 三船 仁史 (有)末廣	 未来創造 委員会 副委員長 遠藤 訓之 親和電設工業(株)	 未来創造 委員会 赤崎 和徳 赤崎牛	 未来創造 委員会 有門 知成 酒泉屋 有門亭
 未来創造 委員会 伊香賀 亮 オフィスイコウガ	 未来創造 委員会 小倉 征典 小倉商店	 未来創造 委員会 園田 拓也 園田建設	 未来創造 委員会 古谷 和雅 (株)古谷金物店	 未来創造 委員会 栢田 晃久 栢田法律事務所
 未来創造 委員会 三木 祐太 筑前庵	 未来創造 委員会 水野 友弥 みずみ建築 設計事務所	 未来創造 委員会 本松 政一郎 社会福祉法人 嘉穂福祉会 三愛園	 リーダー育成 委員会 委員長 中村 和也 福岡クリエーション 開発(有)	 リーダー育成 委員会 副委員長 今吉 義之 (株)パーソナルネット
 リーダー育成 委員会 赤坂 昌紀 (株)緑観園	 リーダー育成 委員会 大塚 正博 (株)三信ビル管理	 リーダー育成 委員会 大村 洋祐 (有)日本パボラ	 リーダー育成 委員会 久保 勝志 飯塚信用金庫	 リーダー育成 委員会 齋藤 壮史 (株)社・緑土環境
 リーダー育成 委員会 塚原 大悟 (有)めがねのツカハラ	 リーダー育成 委員会 野村 昇平 飯塚信用金庫	 リーダー育成 委員会 淵上 拓也 バームハウス	 リーダー育成 委員会 松山 羽得 (有)庄内衛生舎	 リーダー育成 委員会 渡辺 紘一郎 社会福祉法人 嘉穂郡社会福祉協会

2018年度 卒業生ヴォイス

2018年度は15名のメンバーが卒業しました。



神田 顕 kanda akira

入会前の私は父の会社で仕事に意義をもてず不安感を抱え、企業の後継者としてよくあるまずい状態だったと思います。JCで様々な機会や友を得た事で、自分の仕事に夢と理想が生まれ社会的意義を確信出来ました。また、JCで学んだ目的実現の為のプロセスが理想への歩み方を教えてくれました。JCで得た経験と友は今後も私を刺激し続け沢山の目標をもたらしてくれると思います。この10年間、本当にありがとうございました。



狩野喜彰 kano yoshiaki

この10年間で、現役・シニアを通し約300名以上ものメンバーや多くの参画者、そして多くの参加者と関わる事が出来ました。内部・外部問わず、この出会いを通し笑顔や感謝の言葉、そして新たな気付きや繋がりを与えてくれた事に感動を覚えました。そして、自己の成長を遂げながら地域貢献に携われる機会を与えてくれた皆さんに感謝いたします。本当に有難う御座いました。



明日貴也 akehi takaya

5年間の中での思い出はたくさんありますが入会して一番良かったと感じる事は【仲間】と出会えた事です。仲間の支えがあったからこそ続ける事が出来たと思います。積極的に活動に参加し仲間と関わる様になってからJC活動が楽しいと思いはじめたし自分自身の成長にも繋がりました。卒業するのは寂しいですが次年度も現役メンバーの皆さん、飯塚青年会議所、そしてこのまちの為に頑張ってください！期待しています！



小黒 敦 oguro atsushi

脱サラし、家業を継いだものの、地域との繋がりが無い私は、自己成長や繋がりを求め、JCに入会しました。そこには、地域内や地域外の多くのすばらしい出会いを得ることができました。また、自ら機会をつくり、関わり合い、助け合う事でたくさんの気づき、経験を得ることができました。本当にギョッと詰まった、本気になった三年間でした。事業後の達成感で40歳が男泣きするそれがJCでした。JCに入って本当によかったと思います。

一般社団法人 飯塚青年会議所

会員募集中

青年会議所は20歳から40歳までの情熱ある青年の団体です。

青年会議所(JC)は“明るい豊かな社会”の実現を理想とし、時代の担い手たる責任を持った20歳から40歳までの、指導者たらしとする青年の団体です。私たちは現在、国内695余りの都市に約34,300人の会員を擁し、全世界130カ国の国及び地域に活動拠点があります。青年会議所の事業目的は“社会と人間の開発”です。私たちは市民社会の一員として、市民の共感を求めて社会開発計画に基づいた活動を行い、「自由」を基調とした民主的な指導能力の開発を推し進めています。

(一社)飯塚青年会議所は、あなたの力を求めています！

対象者：飯塚市、嘉麻市、桂川町に住所または勤務地を有する20歳から37歳までの健全な方であれば男女は問いません。詳しくは下記(一社)飯塚青年会議所事務局までお問い合わせください。

飯塚青年会議所
ホームページは
こちら！

飯塚青年会議所
フェイスブックは
こちら！

